

## しみん基金・KOBE ごあいさつ

「こうべあいウォーク 2009」へご参加いただき誠にありがとうございます。

阪神淡路大震災を契機に、地域社会に参画し自分たちの暮らしを支え合う活動の大切さが広く認識されました。このような市民によるボランティア活動の基盤を市民自らが支えていく仕組みとして「しみん基金・KOBE」は1999年に設立されました。

この「こうべあいウォーク 2009」での募金は、当基金へ寄付されます。お預かりした寄付金は、毎年実施している助成事業を通じて、さまざまな分野の草根市民活動団体へ助成させていただきます。

当基金は設立以来、既に延べ95団体に総額約3600万円を助成してきました。地域における市民活動の基盤形成の一助としての役割を果たしてまいりました。また、これまで助成してきた団体の多くは活動を継続されていて、地域の中で大切な役割を果たしています。

これらはすべて、一人ひとりの市民が少しずつでも支えあい育てあう市民社会作りを支援しようという想いの賜物と感謝申し上げます。今後なお一層努力を続けてまいりますので、何卒ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人しみん基金・こうべ 理事長 黒田裕子

TEL 078-230-9774 (E-mail) kikin@stylebuilt.co.jp

(URL) http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/

- ① 新長田駅北地区面整理地区…震災前は、商業・業務施設やケミカルシューズ等の工場と混在する形で狭小住宅等が立地する住商混在地域であったが、今回の地震で約8割の建物が大きな被害を受けた。
- ② せせらぎ…まちづくり協議会の提案を受けて整備を進めてきたので、高取山の湧水を利用している。せせらぎの流れる歩道にはベンチを設置しており、市民が集う憩いの場となっている。
- ③ シューズプラザ①…震災から長田のケミカルシューズ産業の復興と靴のまちがたの活性化を目指し、『シューズの元気は、神戸の元気だ!』をキャッチコピーに誕生。各種シューズ展や企画展を実施している。
- ④ アジアギャザリー神戸…アジア雑貨の店が集まる商業ビル。約8千人のアジア系外国人が住む長田で、アジアとの共生をテーマにした中核施設として2000年7月にオープンした。
- ⑤ 水笠通公園…地域の防災公園(長田駅北地区震災復興土地面整理事業)としての役割を持ち、「100t級防火水槽」が整備されている。
- ⑥ 新湊川…震災後、多くのボランティアグループが川沿い公園に拠点をおき活動した。その後、2度におたつ川が氾濫したが、2000年に新湊川トンネルが改築された。(現工事は阪神高速道路関係)
- ⑦ 御蔵東・西区面整理地区…震災前は、戦前長屋が残り、市場・商店街や家内工業を中心とした中小規模の工場が立地する利便性の高い住宅地だったが、地震で約9割の建物が大きな被害を受けた。

①の場所は、  
トイレが利用できます。



- ① 大國公園…震災による火災の延焼を防ぎ、地区の人々の避難所となった。倒壊した鳥居の石を使った記念像、震災直後の街の様子をステンレス板のプレートに焼付けた「協働のモニュメント」、「復興の基準点」がある。
- ② 御蔵東地区面整理地区…震災前は、商店街と戦前長屋等からなる利便性の高い住宅地であったが、今回の地震でほぼすべての建物が焼失するという大きな被害を受けた。
- ③ カトリックたかどり教会①…多くのボランティアの拠点となった教会。震災で焼失したが、2007年4月に再建された。「ペーパードームたかどり」は台湾に移設された。NPO法人たかどりコミュニティセンターが多文化共生の拠点となり多くのNPOが活動している。
- ④ 野田北部まちづくり協議会…1999年3月の「コミュニティ宣言」後、まちづくりの根幹をハードからソフトへと移行し、地域をネットワークする組織「野田北ふるさとネット」を創設。(目に見える)活動と(目と鼻の先で)仲間づくり・生活づくりの思想でコミュニティでの(分かりやすい)まちづくりを目指している。
- ⑤ 日吉町ひだまり公園…災害に備えて各所に造られた小さな防災公園の一つで、「刻 1995.1.17」と刻まれた公園のシンボルが、地域の人たちのあの日の記憶を伝えている。
- ⑥ 日吉町ポケットパーク「あわせの地蔵」…防災公園にある地蔵堂に、震災による火災で黒こげとなった2体の石地蔵と、仏教ボランティア大阪から寄贈された木彫りの「あわせの地蔵」がお祭りされている。
- ⑦ 新長田駅南再開発地区…震災により甚大な被害を受けた市街地の復興と防災公園等を中心とした防災拠点の構築、地域の活性化や副都心にふさわしい都市機能の整備を図るために実施される約6割が完成。未入居の商店が残っている。
- ⑧ 「鎮魂と復興のベンチ(神戸の壁)」…若松町の公設市場の防火壁は、神戸大空襲と大震災の火災に耐え、歴史の証人として「神戸の壁」と呼ばれ震災の象徴となった。再開発事業で移転が決まり、地中の基礎部分が椅子の形にデザインされ、「アスタクにつか」の地下通路に展示されている。
- ⑨ 大正筋商店街…9割の店が全壊し壊滅的な被害を受けた。モダンな商店街として再建され、大正筋商店街らしい人情あふれるイベントが各種開催されている。大正時代の生活空間である土間と居間を再現した「大正ハイカラ進歩住夢亭」が開業されている。

- ⑩ 古民家を移築した集会所…香住町に建てられていた古民家を移築して作られた御蔵通5・6・7丁目自治会集会所。御蔵地区の住民たちの交流の場となっている。
- ⑪ 御蔵南公園…震災時、火災のひろがり防止し、公園内に避難した人を火災から守ったクスノキがある。震災時は10mあったが、焼けた木の上部を切り取って8~8.5mとなっている。
- ⑫ 御蔵北公園…地域の方々が整備した公園で、この地域の120人が亡くなった場所を示す地図が刻まれている「鎮魂」のモニュメントが設置され、焼け残った電信柱が保存されている。
- ⑬ 共同住宅「みくら5」①…12件が集まって建てた共同住宅。1階の地元企業の協力による「地域コミュニティスペース・プラザ5」を拠点に、まちコミュニケーションはまちづくり活動を展開している。
- ⑭ 味彩館 SUGAHARA(旧菅原市場)…震災に伴う火災により、焼け野原となってしまったが、いち早く仮設店舗で営業を再開し、復興の象徴ともなっていた。現在は、一部の店主が集まって「味彩館 SUGAHARA」の営業を行い、入口には記念碑「真さん」がある。

- ⑮ 震災ミュージアム…震災で芽生えた暖かい助け合いの心をいつまでもとどめ、防災知識の普及啓発に努める場所として、また震災の記憶・体験・教訓を伝える拠点として整備された。
- ⑯ 六間道商店街…かつては神戸有数の繁華街だったが、周辺の企業が撤退し、大震災もあって店舗が減少した。「六間道お百度マイル」の取り組みや、横山光輝氏(鉄人28号の作者)の偉業を発信する常設展示会場「六間道なごみサロン」、新名所の「龍武帝廟」がある。
- ⑰ 丸五市場①…80年以上の歴史を誇り、伝統の仕入や加工・販売技術を持つ、こだわり専門店が多い。アジア系食品や物品を扱う店もあり、他の市場にない楽しい買い物の場だと評されている。昔ながらの町の人情と温もりが残る市場。
- ⑱ 本町筋商店街…震災で多くの店舗が倒壊したが、「ビッグハート」をシンボルとして、ふれあいコンサートや長田こなもんまつり、陶芸教室・絵付け教室などのイベントを多数実施している。修学旅行生対象の絵手紙教室も好評。
- ⑲ 神戸協同病院①…震災では身体的に夜中まで診療にあたり、震災後の復興には地域住民と一緒にまちづくりに参加してきた。地域から頼られる存在になることを理念として、地域住民とコミュニケーションをとり、病院という枠を超えて地域のまちづくりに力を入れている。
- ⑳ 大若地区震災復興記念碑…マンションの入口に、「明日へわがまち」と大きく書かれた記念碑がある。台座には、戦災・震災の火災に耐え抜いた「神戸の壁」の一部が使われ、被災住民が一日でも早く帰って来られることを最優先課題とした復興協議会の決意が記されている。

10年前のパンフレットの地図と見比べて歩いてください。

第1回あいウォークの地図は10年前のもので、今は無くなったり変わってしまったりのところがありますので、ご注意ください。